島原市の橋（橋長１５m以上）の特徴

島原市の特徴である河川橋

島原市では、雲仙岳から多くの河川が有明海に流れ込んでおり、河川橋が多く点在しています。また、普賢岳災害復興時に多くの長大橋が架設されたのも特徴です。事後保全的な修繕から予防保全的な修繕への転換を図るためにも、計画的な維持管理を行っていく必要があります。

【湯江川流域橋梁群】
・湯江川（支流含む）に架設された橋梁
（湯江橋・坂下橋など　　１６橋）

【市街地中心部橋梁群】
・中尾川および沿岸部の市街地に
架設された橋梁
（河原橋・前浜大橋など　１１橋）

【水無川流域橋梁群】
・災害復興時に水無川に架設された橋梁
（われん川大橋・吉祥白天橋など　６橋）

●：橋梁位置（３３橋）

島原市の橋（橋長１５m以上）

番号	橋梁名称	路線名称	橋長(m)	架設年次(年)
1	浜大橋	中安徳浜の町線	57.0	1996
2	霊南橋	霊南津町線	18.8	1977
3	木場橋	木場線	17.7	1973
4	六ツ木橋	ひょうたん畑出の川線	96.8	2000
5	北川2号橋	八幡町・北門循環線	15.9	2000
6	釘原橋	原宇土線	125.1	2004
7	河原橋	制札・江里線	88.0	2000
8	林出橋	南安徳浜の町線	57.7	1996
9	新中道橋	八幡町・北門循環線	27.6	1996
10	新萩原橋	長池三会線	22.0	2000
11	前浜大橋	前浜1号線	83.3	1997
12	大南橋	水無川左岸堤塘線	71.3	1996
13	西町側道橋（仮称）	中尾出平線	22.0	2005
14	中尾町跨道橋（仮称）	中尾江里線	46.6	2001
15	われん川大橋	安中稲荷山水無川線	185.0	2004
16	札の元橋（仮称）	札の元鎌田線	36.3	2000
17	吉祥白天橋	白谷9号線	200.0	2008

番号	橋梁名称	路線名称	橋長(m)	架設年次(年)
18	湯江橋	浜中央線	34.8	1996
19	湯江川橋	横断B線	26.0	1960
20	川原橋	川原森岡線	27.2	1970
21	寺前橋	久原線	25.8	1959
22	宮ノ元橋	前田1号線	27.5	1993
23	第二川床橋	大原門前線	20.7	1993
24	第三川床橋	川床線	18.1	1959
25	坂下橋	柏野・二ツ石線	21.3	1959
26	上折橋	下折橋線	15.6	1956
27	織橋	二ツ石線	23.1	1995
28	川床橋	門前3号線	18.0	不明
29	東鷹野橋	東鷹野1号線	15.7	1993
30	柏野橋	柏野二ツ石線	24.5	1980
31	有明橋	湯江漁港2号線	33.5	1978
32	山ノ神大橋	中鷹野光之川内線	80.0	2008
33	第二有明橋	湯江漁港2号線	27.5	1982

島原市の橋の今とこれから

1

普賢岳災害以降に架けられた橋は２１橋ありますが、架設から３０年以上経過している橋も１０橋あります（橋長１５ｍ以上の３３橋に対して）。

新旧の橋が混在している

2

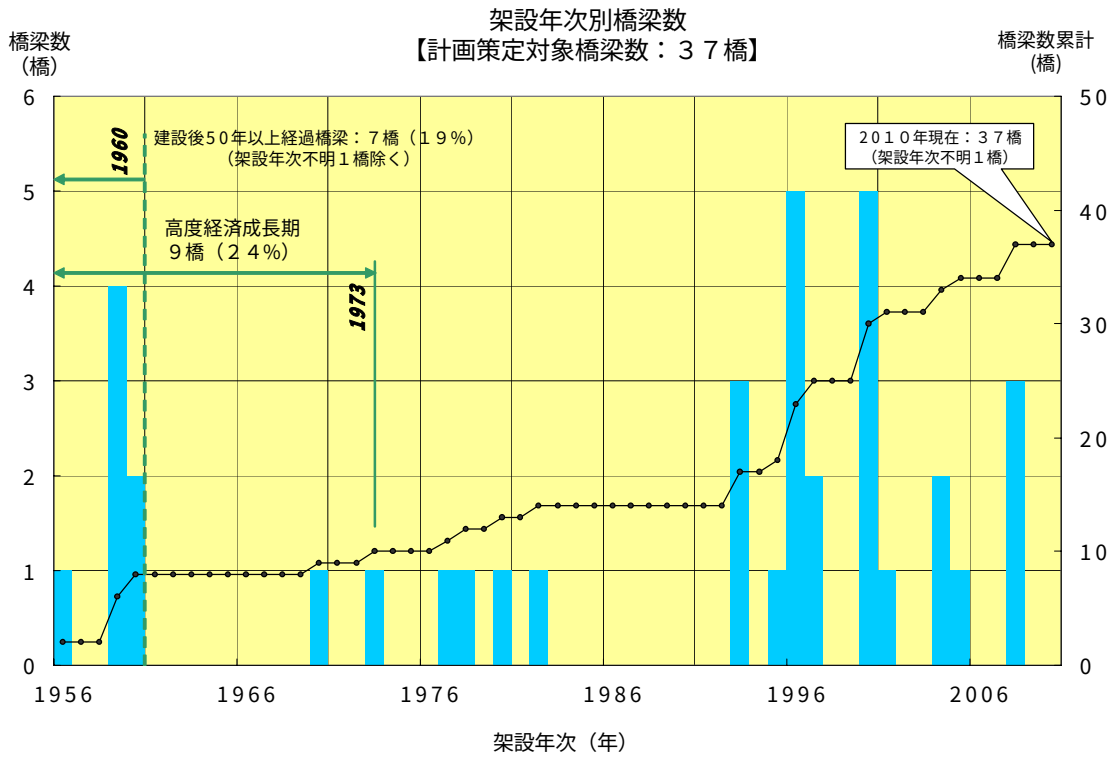
将来的に、急速に老朽化していく橋が増えます。

3

市の東部は有明海に面しており、海からの風により塩害を受けやすい環境にあります。

海風の影響で橋が劣化しやすい

架設年次別橋梁数(橋長１５ｍ以上)



※同一橋梁で構造形式が異なり複数の橋梁と見なしているものがあるため、３３橋を３７橋として分析しています。

今後急速な補修補強費の増大が予想される！ ⇨ 橋の状態を常に把握し、計画的に対策を施す必要がある。

橋の健康状態を知るために

効率的に橋梁の健康状態を調査

島原市においては、長崎県により整備されている橋梁点検マニュアルを利用して概略点検を行うことにより、管理している橋の健康状態を効率的に把握することができました。

今後も定期的に点検を実施することで、橋の健康状態を把握し、適切な維持管理を実施していきます。

橋梁長寿命化修繕計画の策定

橋梁長寿命化修繕計画の策定においては、長崎県市町橋梁長寿命化検討委員会（平成２２年12月、平成２３年３月開催）により、学識経験者等の意見を聴取し、計画に反映させています。

委員会における議事内容の抜粋

島原市の有明橋については、鉄筋が露出しており、補修が必要です。沿岸部にあるため、海域塩分の影響があって今のような状態になっていると思いますので、補修する際には、塩害への対策も必要です。

【委員会における共通議事内容】

◆長崎県下各市町が「橋梁の定期的な補修によるコスト縮減効果」と「橋梁の健全性の維持」の両方について考慮して維持管理に取り組むことが必要です。

◆市民の視点に立って、安全安心ということを念頭に置いておくことが重要です。

橋の長寿命化修繕計画

今回、対象となった１５m以上の３３橋について長寿命化修繕計画を策定しました。
点検によって捉えた劣化損傷に対して、修繕が必要な橋から早めの対応を行うことにより予防保全型へと移行し、安全性を高めるとともに、将来にわたって維持修繕にかかるコスト縮減を図ります。
今回は１５m以上の３３橋について計画を策定しましたが、今後は１５m未満の橋についても点検を実施していく予定です。

長寿命化修繕計画の実施方針

◆点検結果より修繕が必要と判断された橋は、今後１０年以内に対策を完了し、維持管理水準を高めます。

◆長寿命化修繕計画策定後は、橋の維持管理を予防保全型へと移行し、安全性の確保とコストの縮減を図ります。

◆今後は定期的に点検を実施し、必要に応じて計画の見直しを行います。

◆修繕にあたっては予算の平準化を図りながら、計画的に実施します。

今後の点検・修繕計画

	単位	H23計画	H24計画	H25計画	H26計画	H27計画	H28計画	H29計画	H30計画	H31計画	H32計画	H33計画	合計
点検計画橋梁数	橋	2	1	3	1	10	10	10	0	2	0	4	43*
修繕計画橋梁数	橋	0	2	1	4	1	1	0	0	0	0	0	9

＊点検計画橋梁数の合計については複数回点検を実施する橋梁があるため、対象橋梁数とは異なる。

橋の健全性を向上させ、安全で安心な橋を保ちます。